■仮名垣魯文　　**戯作者・新聞人。自ら新聞を発行して開化期の風俗を面白可笑しく描き，維新直後の文学空白期を埋めた。**
かながきろぶん
ｼｰﾎﾞﾙト追放・1829＝　　江戸京橋で，相模国萩園の代々の農家から魚屋に転じた佐吉の子に生まれる。幼名兼吉。

俳諧を好む風流人の父から読書の楽しみを教えられ，手習いもするうち，

火災に遭って家運が傾き，

・・・・・・1836＝ 7歳：飢饉の影響で困窮の極に達したことから，
大塩平八郎乱1837＝ 8歳：新橋の酒商{鳥羽屋}に年季奉公に出され，たちまち模範的な丁稚となるが，
適塾ｵｰﾌﾟﾝ・ 1838＝ **9歳：**
_「道中膝栗毛」を買って読みふけり，戯作者を夢見るようになったところに，

天保改革始・1841＝12歳：_放蕩過ぎたために{鳥羽屋}に預けられて来た{津国屋}の嫡男子之助に気に入られ，
天保改革弾圧1842＝13歳：_狂歌師のもとに連れられたり，取巻きの茶屋主人・幇間・俳諧師らと付合って成長，
順天堂始・・1843＝14歳：_{津国屋}に戻った子之助の勧めで，狂言作者花笠文京に入門し，和堂珍海と号する。
天保改革終・1844＝15歳：_英魯文と改名し，処女作の草双紙「政談青砥碑」を執筆。
阿部正弘首座1845＝16歳：

・・・・・・1847**＝18歳：**
・・・・・・1848＝19歳：戯作披露を思い立ち，主家に内緒で，著名作家のもとを回って狂歌や発句を乞い受け，書物にして配布しようとしたところ，父が重病になり，看病に努めるも死去，葬式のため貯えを使い果たしてしまうが，
北斎没・・・1849＝20歳：友人らの助けで，***錚々たる作家から贈られた狂歌や句と渓斎英泉の表紙絵を得て，「名聞面赤本」刊行。**
_習字指南について四書五経を学ぶ一方，著述のためには遊蕩体験も必要と，妓楼や置屋に通い，常磐津や清元の稽古，{鳥羽屋}の番頭らから再三意見されるようになって飛出し，放浪の身となる。鹿沼でたまたま同宿となったかわら版屋虎屋倉吉と懇意となったことから，その食客となって道が開け，
ペリー来航・1853＝24歳：_利益を上げた虎屋倉吉から湯島の住宅を贈られ，戯作者を自覚し，いくつかの作品も刊行。
開国開港・・1854＝25歳：近所に住む旗本の妾の妹と結婚するも，相変わらず遊蕩して，生活は困窮，
安政大地震・1855＝26歳：浄瑠璃の合巻化や翻案物など，読者サービス意識した作品を刊行。_大地震後には際物狙いの出版業者の注文に応じ，絵師と組んで錦絵物にして好評得るなどして，ジャーナリストの基礎も形成されて行く。
松下村塾・・1856**＝27歳：**
五ヶ国条約・1858＝29歳：長男が誕生。
その後も，出版業者の注文に忠実に応じて，翻案物など創意に乏しいながらも，作品を刊行し続け，
桜田門外変・1860＝31歳：_零落していた師文京の死を弔った後，女子にも富士登山の認められる御縁年にあてこむ出版業者の注文に，途中自らも富士登山して書き上げた初の長編滑稽本「滑稽富士詣」で認められ，仮名垣魯文と名乗る。
遣欧使節・・1861＝32歳：_読者の外国への関心に応えるべく，異国的題材に「万国人物図会」「童絵解万国噺」を刊行，際立ったアイディアで啓蒙的役割を果たす一方，
生麦事件・・1862＝33歳：日本橋に転居。妻が死去。_「東紫哇文庫」，
8月18日政変 1863＝34歳：神田に転居。千住の遊女と深くなじみ，後妻に迎える。
禁門の変・・1864＝35歳：福井町に転居。_「仮枕巽八景」，
薩摩藩士密航1865**＝36歳：**_「傀儡師筆の操」など，江戸趣味にマッチする粋な腕も見せ，名はかなり知られるも，特色薄かったが，
大政奉還・・1867＝38歳：浅草馬道に転居。江戸市中の店を吉原細見記風に綴った「細撰記」を出版するが，無届のため逮捕される。
明治維新・・1868＝39歳：維新後の新作「薄緑娘白浪」刊。***時勢に敏感な"際物作家"として，文明開化の流れに，本領発揮発揮，**
初の日刊新聞1870＝41歳：後妻も死去。_「西洋道中膝栗毛」で十返舎一九の作品を下敷きに，世界各国の地理風俗を俗解するという名目で，風俗習慣の異なる外国での主人公たちの失敗譚を中心とする滑稽を描いて，評判となり，
学問のすすめ1872＝43歳：_海外への知識集約した「世界都路」は地理案内書の役割を果たして，教科書に指定され，肉食普及の世相とらえた「安愚楽鍋」で話題をよぶ。福沢諭吉「窮理図解」のパロディ滑稽本「胡瓜遣」。"三条の教憲"公布に，
明治6年政変 1873＝44歳：_普及をめざす「三則教の捷径」「大洋新話蛸入道魚説教」を書いた後，戯作界代表して，教部省に「著作道書上げ」を提出し，実を尊重する政策受入れ，方向転換。神奈川県庁雇員に採用され，横浜に転居。
佐賀の乱・・1874**＝45歳：**_県庁の仕事にも慣れ，午後は，{横浜毎日新聞}の雑報記者として活動，実録「佐賀電信録」など物し，
初の民間工場1875＝46歳：***県庁を辞し，{仮名読新聞}を創刊し，新聞ジャーナリズムの活発化を先導し，**
三つの内乱・1876＝47歳：「西洋道中膝栗毛」はこの年まで続いた。_横浜野毛山に，{諸新聞縦覧茶亭}を開く。
西南戦争・・1877＝48歳：_{かなよみ}と改称，「鳥追お松の伝」連載して話題沸騰，三面記事の流れつくる。{魯文珍報}創刊，
大久保暗殺・1878＝49歳：_廃刊し，{芳譚雑誌}創刊。魯文作詞といわれる「梅が枝節」流行。市川団十郎新演出を"活歴"と名づける。
琉球処分・・1879＝50歳：_ニュースと物語を結合させた新しい現実再現譚「高橋阿伝夜叉譚」により，戯作者として復活。以後，「格蘭氏伝倭文賞」はじめ諸作品を次々刊行する一方，{安都満新聞}改題した{いろは新聞}を創刊し，
・・・・・・1880＝51歳：社長披露宴も開かれる。_溺愛する一子熊太郎を世に出そうとするも無理で，自ら執筆し盛況，
明治14年政変1881＝52歳：猫の書画玩具の収集でも知られていて，この年，海軍卿榎本武揚から前年軍艦天城が朝鮮の鬱陵島で捕獲した山猫のつがいを贈られるが，すぐに死んでしまったらしい。高橋お伝三回忌法要の世話人をつとめるなど，_絶頂になるも，新作戯作本は見られなくなり，
岩倉具視没・1883**＝54歳：**趣味の骨董集めも嵩じて，_{いろは新聞}は低迷，仮名垣総退陣となる。
秩父事件・・1884＝55歳：_創刊された{今日新聞}(のちの{都新聞})の主筆に迎えられ，熊太郎を世に出そうと努めるが，
帝国大学始・1886＝57歳：***熊太郎が死去して，水泡に帰し，{東京絵入り新聞}に転じるも虚脱状態で，**
帝国憲法発布1889＝60歳：
帝国議会始・1890＝61歳：_文壇を引退。
大本教・・・1892**＝63歳：**_脳出血を起こして，生活も苦しくなるなか，
日清戦争始・1894＝65歳：_没した。

{有隣新書46}，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，インターネット，